

アスモ・たんぽぽ新聞

アスモ新聞はアスモのホームページ <http://www.asumo-kaigo.jp/> からもお覧になれます。

上記のアドレスか【在宅介護センター・アスモ】で検索してください。

「人に喜ばれる仕事を！！」のアスモは、みなさまとの新たな出会いをお待ちしております。

発行所：在宅介護センター・アスモ

たんぽぽ介護

平成21年1月

第40号



〒165-0026

中野区新井1-26-4 オスカーマンション2F

☎03-5318-4007

先月に続き、『世界でいちばん大切な思い』に載っていた実話です。私が幼いころは日本にも苦学生が多くいました。これほど劇的な出会いはなくとも、皆が助け合って暮らしていたように思います。最近、他人を見れば警戒し、疑わざるを得ない殺伐とした世の中になってしまいました。でも、「このような世の中だからこそ、『情けはひとの為ならず』と、他に温かく接していきたい」と思います。そして、『受けし「恩」も忘れず』と、つくづく思っています。

「入院費と医療費は牛乳1本。支払い済み」
女の子の母親の手術をした医者は、昔、女の子が牛乳を差し出した青年だったのです。あの貧しい苦学生時代、青年にとつてそれはただの牛乳ではありませんでした。それは食べ物であり、また希望だったのです。

青年は、ひとりで留守番をしていた女の子に「何か…、何か食べ物を分けてもらえませんか」「ごめんなさい、何もないの…」女の子はすまなさそうに答えました。「じゃ、水を1杯いただけませんか」
女の子は、牛乳を1本持つてきて、何も言わずに青年に渡しました。青年はとても恥ずかしく、また女の子に悪いと思ったのですが、あまりの空腹に耐えきれず、その牛乳を一気に飲みました。
それから数年が経ちました。実はその女の子の母親は、重い病で入院を繰り返してきました。病気を治すには、手術するしかありませんがその手術はとても難しいうえに、高額なのです。どうしても母親の病気を治したい女の子は母親に手術を勧めました。「うちにはそんな大金はないよ」「大丈夫よ。私が一生懸命働くから。だから手術してみようよ」
母親の手術は成功し、奇跡的に回復しました。退院の手続きをしようとして窓口に行った女の子は、請求書を受け取って驚きました。
「入院費と医療費は牛乳1本。支払い済み」



代表取締役 花堂浩一

牛乳1本

誰もが貧しい時代のこと、医大に通う苦学生が古びた下宿に住んでいました。青年は学費どころか、日々の生活にも事欠き、何日も食べられない日が続き、悩んだ末、大切な本を手に古本屋に向かったのです。



作品のご紹介

大場 一 様



この作品は、数年前デイサービスに通所されていた時に描かれたもので絵葉書になっています。

チャップリンの映画がお好きで、黄金狂時代をモチーフに描かれたとのこと。

他にも数多くの素晴らしい作品があるとのことですので、是非またご紹介させていただきたいと思います。

大場様、ありがとうございました。





～予防しましょう～

インフルエンザ



今年もまわりでインフルエンザが発生し始めました。

国も感染症法を改正して、新型インフルエンザの本格的な対策に取り組み始めたそうです。

基本的なことですが、**個人**でできることをご紹介します。

かからない・ひどくならないために

☆手洗い…ウイルスのついた手で鼻や目をさわることでも感染します。そのため、手についたインフルエンザウイルスを洗い流すことが重要です。

☆無理をしない…十分に休養をとり、体力をつけ、常日頃からバランスよく栄養を摂ることも大切です。

☆適度な湿度(50%～60%)…空気が乾燥すると、インフルエンザにかかりやすくなるので、室内では加湿器などを使い、乾燥を防ぎましょう。

☆予防(ワクチン)接種…体の準備(免疫)を整え、症状が重くなることを防ぎます。



人にうつさないために

☆マスク…咳が出る場合にはマスクを着用し、インフルエンザウイルスをまき散らさないようにしましょう。

☆ハンカチやティッシュ…くしゃみなどをする際にはハンカチなどで口元を覆いましょう。

☆ゴミ箱…使用済みのティッシュは他の人にふれないようにきちんとゴミ箱に捨てましょう。

☆手洗い…鼻をかんだ後は、手についたインフルエンザウイルスを洗い流しましょう。手を洗わずにいろいろなところをさわるとウイルスを撒き散らしてしまいます。

☆外出しない…熱が下がっても、まだインフルエンザウイルスがからだの中にいるので、体の調子が元通りになるまでは外出をひかえましょう。



ちんどん屋さんのこと

「ちんどん屋さん」が事務所近くを通りかかりました。

1845年(弘化2年)に、大阪千日前で飴勝(あめかつ)さんの飴を売り歩く声の評判となりました。やがてその声を活かし寄席の客寄せを引き受けるようになり、「声を使って、街を歩き宣伝をする」という「ちんどん屋」が生まれました。

その後、情報も娯楽もない戦後の時代に庶民のスターとしてもはやされ、最盛期を迎えました。しかし、広告や交通事情の悪化、後継者不足などの影響により、「ちんどん屋」人口は減少してしまいました。

「ちんどん屋さん」の楽器編成には決まりはなく、ちんどん太鼓に、三味線やクラリネット、トランペット、サクソ等がメロディを担当します。他にアコーディオンやギター等が加わった大編成になることもあります。

昭和の時代には、商店街では「ちんどん屋さん」が練り歩き、子供たちがヒーローである彼らの後をついてまわっていたものです。

「ばーか、ばーか、ちんどん屋、おまえのかあちゃんてべそ」はこどもたちの喧嘩の常套句でした。

ちんどん屋さん達がメイクと衣装のまま、電車での移動中に深刻な顔で人生相談をしていた、という笑えない話もあります。

子供の頃には分からなかったけれど、大人になり、ちんどん屋さんの楽器の美味さに驚いたという人もいます。

なんでもデジタル化されている現代に、「ちんどん屋さん」の音色には温かさが感じられ、癒される気がします。

